

## 第 41 回目

「第 6 日目。」「私は、私の胸のうちに子供達および敬虔な魂を受け入れます。

彼らが、天におられる私達の父への特別な愛を持ち続けるために。」

1975 年 12 月 30 日 17 時 30 分 - 第 6 日目、礼拝堂にて

まず、光が現れました。キリストは少し遅れて来られました。彼は私が光の前にひざまづいた時に、目の前に現れられました。彼の胸から、赤と白の光線が流れ出ていました。彼は右手をその場にいる人々の方へ差し出して、言われました：

「第 6 日目、私は、私の胸のうちに子供達および敬虔な魂を受け入れます。

彼らが、天におられる私達の父への特別な愛を持ち続けるために。」

「天にまします我らの父よ」を私はひとりで言い、

「めでたし、聖寵充ち満てるマリア」を 3 度言いました。

「主よ、どうかあなたの苦難に満ちた受難によって、私達、世界中を憐れんでください。」「いと高きところにおられる神に栄光があるように、地にある主に愛される者に、平安と喜びがあるように。」「十字を切ってください。」

恐らくイエスが私におっしゃらなかったら、私は毎回十字を切るのを忘れていたことでしょう。それからイエスは消えていかれました。

## 第 42 回目

「第 7 日目。」「この街の市長を訪れ、教会が所有主とならなければならない

この土地を、教会へ返還する責任を、神が彼に課している、と言いなさい。」

1975 年 12 月 31 日 17 時 15 分 - 第 7 日目、礼拝堂にて

光が見えて、次いでイエスがいつものように両手を私の方へ差し出した姿勢でお現れになりました。左手は胸の上に置かれ、そこから赤と白の光線が流れ出ていました。右手はその場にいる人達に向けて差し出されていました。

私は、イエスが私におっしゃることを繰り返しました：

「第 7 日目、私は、私のメッセージを知って、最後まで耐え抜く人々に、あらゆる恵みを与えます。」「天にまします我らの父よ...」；「めでたし、聖寵充ち満てるマリア...」

(3度)「主よ、どうかあなたの苦難に満ちた受難によって、私達、世界中を憐れんでください。」「いと高きところにおられる神に栄光があるように、地にある主に愛される者に、平安と喜びがあるように。」

この時、光線は消えました。衣は元に戻り、両手は新たに私に向けて差し伸べられました。繰り返し言うように、とはおっしゃらないまま、イエスはこう言われました：

「3日以内に、この街の市長のところへ行って、ナザレのイエスが死に打ち勝ち、その支配は永遠で、この世と時とを征服しに来る、と伝えなさい。もしも市長があなたに、誰があなたを遣わしたのか、と尋ねたなら、それはナザレのイエス、復活した人の子です、と言いなさい。市長にあるメッセージを伝えなさい。彼はこのことを知らなければなりません。」「市長に言いなさい。教会が所有主とならなければならないこの土地を、教会へ返還する責任を、神が彼に課している、と。」

私はイエスに言いました：「けれども多分私は冷たく迎えられるのではないのでしょうか。」イエスは微笑んで言われました：

「表面的には歓迎されないかもしれませんが、彼の心は変えられます。威厳を保つためにそれは表面には現れないでしょうが。」

私は応えました：「主よ、私はあなたの御心を行います。」イエスは姿を消されました。

この時、主任司祭は留守でした。司祭が戻って来た時、ブルノ修道女が、その留守中に書き留めておいたメッセージを伝えました。イエスが私に頼まれたように、私は市長に会いに行きたかったのです。けれども、主任司祭は、またしても、私がそこへ行くのを禁じました。司教は不在でした。彼の意見を聞かずに、何もしてはならなかったのです。誰に従うべきなのでしょう？キリストに、それとも教会に？

私がイエスに従わなかったのは、これで2回目でした。主任司祭は毎回私の邪魔をします。けれども私はまた、従順さは価値を持っていることも知っています。この日、私は何故だか分かりませんが、礼拝堂に行きました。私はとても落ち着いた気持ちで、そこから出てきました。私は平安を見出していました。そして私は、主任司祭、教会の許可なしには何もするまい、と考えていました。⑫

⑫マドレーヌは、スザンヌに伴われて、市長にメッセージを届けた。市長は、快く彼女達を迎え、

後に主任司祭に連絡を取って、言った。「この種のことに、人はやりすぎるか、充分しないかのどちらかだ。」

## 第 43 回目

### 「第 8 日目。」

「私は煉獄にいる魂達の苦しみを和らげます。私の血は、彼らの火傷痕を消します。」

1976年1月1日、17時40分 - 第8日目、礼拝堂にて

光が見え、すぐに左手を胸の上に置いた姿でイエスがお現れになりました。その胸からは赤と白の光線が流れ出ていました。赤い光線のほうが多いように思われます。これらの光線はまるで命の源から流れ出てくる血のようでした。生きているように、軽く上に上り、下の方に広がっていきました。芝生の上に撒く水の流れを見るようでした。そして、絶え間なく新しく湧き出ていました。

いつものように、私はイエスがおっしゃることを大きな声で繰り返しました：

「第 8 日目、

「私は煉獄にいる魂達の苦しみを和らげます。私の血は、彼らの火傷痕を消します。」

「天にまします我らの父よ...」「めでたし、聖寵充ち満てるマリア...」(3度)

「主よ、どうかあなたの苦難に満ちた受難によって、私達、世界中を憐れんでください。」

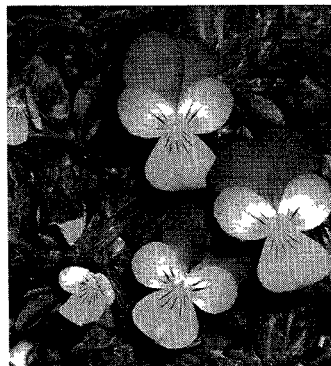
「いと高きところにおられる神に栄光があるように。」(この時、イエスは目を上げられ遠くを見られました。)

「地にある主に愛される者に、平安と喜びがあるように。」

次いで、イエスは胸から手を離され、前回と同様に光線は消えました。

彼は言われました：「十字を切ってください。」

そして私に微笑まれ、姿を消されました。



第 44 回目

「第 9 日目。」「私は最も頑なな心、私の心を何よりも  
深く傷つける凍りきった魂達を暖め、蘇らせます。」

1976年1月2日(金)17時53分 - 第9日目、礼拝堂にて

今日は第9日目、9日間祈祷の最後の日です。

光が、次いでイエスがいつものようにお現れになりました。その胸から、赤と白の光線が流れ出ました。私は大きな声で、主が私におっしゃることを繰り返しました：

「第9日目、私は最も頑なな心、私の心を何よりも深く傷つける凍りきった魂達を暖め、蘇らせます。」

「天にまします我らの父よ...」「めでたし、聖寵充ち満てるマリア...」(3回)

「主よ、どうかあなたの苦難に満ちた受難によって、私達、世界中を憐れんでください。」

「いと高きところにおられる神に栄光があるように、地にある主に愛される者に、平安と喜びがあるように。」

それからイエスは言われました：

「私は、栄光の十字架の足元に来て悔い改め、私が教えた祈りを毎日祈る者達に約束します。生涯彼らの上にはもはや、サタンの力は及ばず、どれほど汚れた生き方をしていたにせよ、瞬時に彼らは清くなり、永遠に神の子となります。」

「限りない慈愛に満ちた私の父は、破滅の淵にいる人類を救いたいと願っておられます。この最終的なメッセージに従い、あなた方は備えなさい。

十字を切ってください。」(私は言われた通りにしました。)

それからイエスは両手を下げて、私に言われました。(大きな声で繰り返すように、とはおっしゃらずに)：

「一言も発することなく、あなたが聞いた言葉を心の中で熟考しなさい。

時は流れても、あなたの信仰は揺らいではなりません。」

イエスは長い間私に微笑まれた後、姿を消されました。こうして、この素晴らしい9日間が終わりました。イエスが私におっしゃった最後の言葉によって、私は主をまたすぐに見ることはないのだろう、と思いました。日々が経ち、数週間が経ち、数ヶ月

が過ぎても、イエスはもはやお現れになりませんでした。主のメッセージは、疑いなく終わったのです。けれどもイエスが世界中に告げ知らせるように、また教会がそれを認知する責任を負っているメッセージにも関わらず、私はイエスが私のもとを去られる前に置いていかれた大きな平安の中にありました。一方で私は、イエスからのあまりに重要なメッセージを世界中に伝える責任を負っている人々のために祈ります。私は疑う人全てのために、祈ります。イエスが彼らの心を照らし、私の口を通して語られたイエスの預言的言葉が世界中で語られ、彼が頼んでおられることが実現するようにと。 ... ああ我が神、あなたの御支配が来ますように。けれどもそれは、あなたのメッセージが世界中に知らされ、この小さな地上の各家庭で、あなたが私に教えてくださった祈りが、大きな信仰と信頼を持って言われるようになってからあなたの御支配が実現しますように。主よ、世界中にあなたの限りなく豊かな慈愛を注ぎ込んでください。アーメン。

イエスはいつも私の心の中におられます。特に聖体拝領の後には強く感じられます。1970年4月12日以来、イエスは降福された御聖体の中で、私の前に御臨在です。

主がある日こう言われた時：「私は栄光の十字架が建てられるまで、あなたを訪れます。」それは多分、主が私のもとを続けて訪ねてこられる、ということなのでしょう。なぜなら、聖体拝領の後にはいつも、私はその御臨在と、主が私に与えてくださる素晴らしい喜びを感じるからです。聖体拝領の後にはいつも、私はイエスに願います。私が聖霊の助けを得て作った祈りを通して。

我が主、我が神、聖なる聖体拝領の中で、あなたを受け取る全ての人々に、あなたが私に与えてくださったこの霊的な喜びを、知らしめてください。彼らが、私と同様に、聖体拝領の中で、あなたの御臨在の中にある真の喜びを見出しますように、彼らがあなたを受け取る時に、どうかこの素晴らしい愛、私がこの数ヶ月以来感じている説明の出来ない喜びを、お与えください、私と一緒に聖体拝領する人々が全て、私の主イエスに対する愛と熱意を感じますように。アーメン。

メッセージ 44 回目 - 第 2 - 礼拝堂にて、ジェラルルに対し

1976 年 12 月 10 日 (金) 私はジェラルルを、礼拝堂へ来るように招待していました。

20 分間黙想した後、私は大天使ミカエルが聖櫃の左側の壁から出て来るのを見ました。彼は私に言いました：

「私はあなた方に挨拶します。私はジェラルルに語っているのだ、と彼に伝えてください：ジェラルル、あなたは主のメッセージを、大きな愛を持って受け取りました。黙想を行う度に、その後あなたの意識があなたを導くままに行動しなさい。あなたは、神に導かれるのに任せなさい。このメッセージを聞きながらいない者は、神の子と呼ばれないであろう。」(参照：マタイ 5：9) 私は礼拝堂にいました。イエスが私に現れた時のように、天に連れて行かれたような感じはしませんでした。(参照：1974 年 5 月 31 日 17 回目)



メッセージ 44 回目 - 第 3 -

第一版の中で、ジェラルールは書いています（参照：注記 4）：1976 年 12 月 10 日、大天使ミカエルの訪れの後、マドレーヌは 3 つの十字架（直径それぞれ 21m、42m、60m）のビジョンを見ます。そして直径 21m、60m の 2 つは消えました。

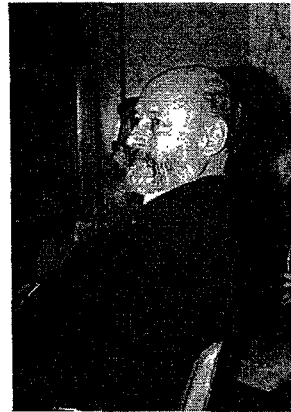
「そこで私たちは、組立作業を微調整することにより、41m の 7 角形の横木と、18 角形の縦木で十字架を作れる可能性がある、と分かりました。」

メッセージ第 44 回 - 第 4 -

1977 年 3 月 7 日 9 時 20 分

- 10 Allée Auguste Daudet, Dozulé

マドレーヌとジェラルール・コルドニエがマドレーヌの自宅にいた時、マドレーヌは次のようなメッセージを受け取りました。“*Manus Domini confortavit te*”  
「マドレーヌ、主の御手があなたを強めたのです。」  
スザンヌは、出掛けたところでした：「彼女のために買い物に出たのは、後にも先にもその時きりでした。」



メッセージ第 44 回 - 第 5 -

1977 年 3 月 19 日 - 4 Allée Auguste Daudet, Dozulé

“Gerard apostolos hic emulans

(ジェラルール、使徒達に匹敵する者

Sancto ducta flamine

聖霊によって導かれ、

Pellis indulgens et iniqua linguae

怠惰なる者を叱咤激励し、

Vincla resolvit”

舌の不正な関係を解く。)

「ジェラルール、使徒たちのライバル、御霊の息吹に従順な者、あなたは捕らわれていた言葉を開放する。」

「スザンヌ・アボワンヌの自宅で、マドレーヌは光る文字で書かれた、フランス語ではなく、ラテン語を見ました。彼女はそれらの言葉の意味も分からないまま、書き写しました。彼女は紙を見ませんでした。誰かが彼女の手を取って導いている感じがし